

りとにゅーす

No.63 2011.4.1

図書館の情報を
携帯でチェック!!編集・発行 岡山理科大学図書館
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
<http://www.lib.ous.ac.jp>

文字・文・文章

岡山理科大学 学長
波田 善夫

情報機器の発達によって、文字を使うことが容易になった。昔は書けなければ使えないので、正しく漢字を使うためには大変なトレーニングが必要であった。練習帳に何度も同じ漢字を書くのが宿題であった思い出がある。「筆やペンで書ける能力がなければならぬ」とか「パソコンが漢字能力を低下させる」など、さまざまな意見が交わされてきた。

現在は、書けなくても読めれば十分漢字を使うことができる時代となった。ひらがなで入力すれば、ほぼ適切な漢字に変換してくれる。鬱の筆順は?と悩む必要はない。表意文字である漢字の使用は、表音文字の平仮名や片仮名に比べて随分と深遠な表現が可能である。

文字が連なると文ができる。情報機器の発達によって、文が作りやすくなった側面がある。脳裏に浮かんだ文をほぼ即座に形にすることができるし、モニター上でのカット&ペースト、コピーなどの操作によって、ゴム消しが不要になりつつ

ある。しかし、メールなどで飛び交う文は、首をかしげたくなるものもある。用件中心で省略されている部分が大きいためであり、時として誤解を招くこともある。会話がそのまま文になっているのだが、微妙なニュアンスが伝わらない。絵文字があると、雰囲気わかるようになる。絵文字は、漢字と同じ表意文字なのである。

たくさんの文が連なって、文章ができる。まとまった思想は単一の文では伝えることはできず、いくつもの文を体系的に組み上げて作られる文章によってのみ伝えることが可能である。電子ブックが登場し、次第に広がりつつある。通勤など、さまざまな環境の中で簡単に豊富な文章を読むことができる時代になった。文字を使う環境は随分と整ってきた。周辺環境は整ってきたので、文章を理解し、作ることができる日本語能力が真に要求される。学びの中で、長い文章と親しむ必要がある。



11号館図書館

Contents

- ・ 入学おめでとう P.1
- ・ 学部長推薦本 P.2
- ・ 各号館案内 P.3
- ・ オリエンテーション案内 P.4